

# 教科外活動を通じて育む 次代を生きる「軸」「修正力」

変化の大きな時代の中で、志を持ってより良く生き抜くために必要な「軸」と「修正力」。高校生活で「軸」と「修正力」を育むために、教科外活動はどのような役割を果たすことができるのか。

事例 1 進路行事

生き生きと働く人の熱に触れさせ、  
確固たる志を持った  
「大学からの人間」を育てる

東京都立小山台高校

● 東京都立小山台高校  
キャリア教育プログラム 概要

生徒が自らの可能性や将来の夢・目標を発見し、主体的な進路選択が出来るよう、学年ごとに目標を設定し、外部講師と協力しながら、様々な進路行事を実施している。

1年生では、「自分と社会のつながりから進路を意識する」を目標に、様々な社会人によるキャリアガイダンスや留学生との交流などを通して、未来の自分像を探す。2学期から3学期まで、社会的な課題からテーマを1つ設定し、その解決策をスライド6枚にまとめて提案する探究型プロジェクトに取り組むことで、大学



## 東京都立小山台高校

◎ 東京都の進学指導特別推進校として、高度な学力の養成と主体的な進路選択能力の育成を軸に、進路指導を展開する。進路指導の強化を開始した2006年度以降の7年間で、国公立大合格者、難関私立大合格者はいずれも3倍に増加している。また、「班活動」と呼ばれる部活動も盛んで、加入率は延べ100%を超える。

◎ 1923（大正12）年設立。全日制・定時制／普通科／共学。1学年約300人。2014年度入試では、国公立大は、筑波大、千葉大、一橋大、東京工業大、横浜国立大などに65人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、明治大、早稲田大などに延べ590人が合格（現役のみ）。

〒142-0062 東京都品川区小山3-3-32

<http://www.koyamadai-h.metro.tokyo.jp/>

や社会で求められる課題発見力、問題解決力、表現力を育成する。

2年生では、「目標を定めて進路を見通す」を目標に、自らが目指す職業や夢につながる学問、それを学べる学部・学科、大学について、大学見学会や卒業生による進路懇談会、研究者による模擬授業などを通して考え、2学期末までに第1志望を絞り込む。そして、冬休み前の「冬

期勉強合宿」を経て、3年0学期から本格的に受験勉強に取り組む。また、学年を問わず、研究所訪問や理科講義実験、開発現場見学会などに参加する。

3年生では、「受験は団体戦」を念頭に、協同学習、班活動(II部活動)単位での勉強会などを通して、最後まで第1志望を諦めずに、全員で受験に臨む雰囲気在校内に醸成する。

## 卒業生が語る



エネルギー関連会社勤務  
社会人1年目  
**中山冬李**  
なかやま・とつり

## 志を持つことで、大学も就職も ゴールではなくスタートになる

大学はゴールではないと  
社会人から学びました

小山台高校在学時に経験したキャリア教育の中で、私が最も大きな影響を受けたのは、社会人によるキャ

リアガイダンスです。法曹、技術者、マスコミなど多様な社会人の方々が話をしに学校に来てくださいました。私は1年生から2年生にかけて、4、5人の社会人の方の話を聞きましたが、その中の1人に、早稲田大

## 写真 社会人によるキャリアガイダンス



第一線で活躍する社会人から、仕事のやりがいや生き方、進路選択の考え方を学ぶ。2014年度は17講座を開講した。

を拠点に国際協力NGOを設立し、世界の貧困の解決のために精力的に活動している方がいました。

「大学生の時、海外を歩く中で、社会の課題が具体的に覚えてきて、その解決に自分はどうかわわっていかくか、人生の方向性がはっきりしてきた」とその方が語るのを聞き、私は「大学生はその気になれば世界に飛び出していけるんだ」「自分にはいろいろな可能性があるんだ」と思うようになりました。そして、大学はゴールではなく、大学で何を学ぶのか、そこで得たものをその後の

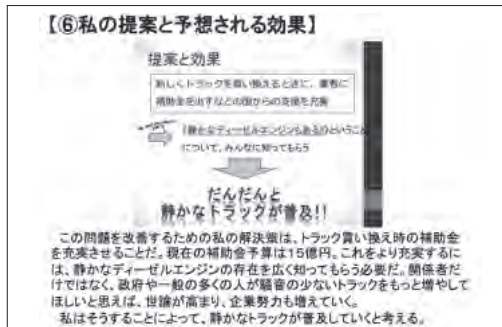
キャリアにどうつなげていくのかが重要なのだと考えるようになったのです。それは、高校時代、私が進路を考える際のぶれない軸となりました。

「早く大学生になりたい」。そう思うようになると、高校の勉強にもそれまで以上に一生懸命取り組むようになり、世界で今何が起きているのかを知るために、新聞も丁寧に読むようになりました。

大学生活に期待したから、  
大学名はこだわりませんでした

また、キャリアガイダンスでいろいろな社会人の方々の話を聞いたことで、社会課題の解決へのアプローチ方法は様々あることが分かり、進路の選択肢が増えた気がしました。一番関心があるのは途上国の支援だけれど、他の分野でも活躍する自分が想像できるようになったのです。だから、大学では専攻だけでなくいろいろな勉強しようと思いました。

第1志望の国立大が不合格となり、併願大だった早稲田大に合格し



「社会を知る」探究型プロジェクトでは、社会課題とその解決策を探究し、スライド6枚にまとめて発表する。

た時、1年後の再チャレンジを勧め  
てくださる先生もいらつしやいま  
した。しかし、「この大学でなければ」  
といったこだわりがなかった私は、  
早く大学生になって、興味のある世  
界を自分の目で確かめたいと考え、  
早稲田大への進学を決めました。

大学では、もちろん国際協力N  
GOに参加しました。カンボジアに  
学校をつくるプロジェクトに携わる  
ことになり、どのような学校が必要  
か、建設後のマネジメントは誰が行  
うのかなどを現地に行って調査した  
り、日本国内の企業にコンタクトを  
取って、支援をお願いしたりしまし  
た。私自身がかわったプロジエク

トとして、最初に学校が完成したの  
は3年生の時です。仲間と力を合わ  
せれば、大学生でもこれだけのこと  
が出来るという達成感を味わう一方  
で、世界の貧困という大きな課題を  
解決するための道のりの長さを改め  
て感じました。

### 大学までの人間ではなく、 大学からの人間でありたい

今、私はエネルギー関連の会社で  
働いています。エネルギーは世界の  
平和や貧困に大きな影響を及ぼす重  
要な要素です。採用面接では、「日  
本の持続的な発展に貢献しながら、  
途上国にとってもWIN-WINな関係  
を構築したい」と、私が中高生の頃  
から抱いていた思いを語りました。

私は、大学進学がそうであったよ  
うに、進路選択の局面で、全て当初  
思っていた通りの道を歩いてきたわ  
けではありません。ただ、キャリア  
ガイダンスで話をしてくださった社  
会人の方々はみなさん、何らかの挫  
折や失敗、進路変更を経験していま  
したし、「その経験が力になる」と  
おっしゃっていました。社会人に  
なった私も、今、そう思っています。

### 教師が語る



東京都立小山台高校  
**山本美園** やまもと・みその  
教職歴28年。同校に赴任して10年目。進路主幹。

## 志とそれを実現する力を 育むのがキャリア教育

### 生徒の世界を広げる機会を つくりたいと思いました

キャリアガイダンスは、社会人の  
話を通して、人生には数多くの選択  
肢があることを生徒に伝えると共  
に、生徒が生きていく上で必要な志  
や夢、目標を育むきっかけにしてほ  
しいという思いから始めました。

私は、面談などで生徒が語る夢が、  
限定的なものになっていると感じて  
いました。「そういう分野に興味があ  
るのなら、こんな進路もあるよ」

大学生の時に、小山台高校の後輩  
向けにキャリアガイダンスの素晴ら  
しさと高校生にとっての意味を説明  
する文章を書かせていただきました。  
その時に私が書いたのは「志を

持つことの大切さ」です。大学まで  
の人間ではなく、大学からの人間に  
なるには、志が必要です。それは、  
社会人として仕事をしていく際にも  
重要なものだと思うのです。

とアドバイスすると、「そうなんで  
すか!」と素直に驚く生徒に、出来  
るだけ多くの情報、選択肢を与えた  
いと思ったのです。

実際、世界の動きや社会問題に興  
味を持つようになった生徒は、自分  
で講演会などに参加して、視野を広  
げ、主体的に進路を考えるようにな  
ります。そして、それと歩調を合わ  
せるように学力も伸びていきます。

中山さんがまさにそうでした。大学  
在学中も、そして就職してからも、  
自分で人生を切り開いている中山さ

## 学校の思いと外部をつなぎ 生徒の心に響く活動をつくる

東京都立小山台高校 進路アドバイザー  
川上崇穂 かわかみ・たかほ



本校の進路アドバイザーになって8年目になります。普段は自動車メーカーの技術者として働いていますので、活動は土日などの空いている時間を中心です。社会人・職業人の視点を生かして山本先生とキャリア教育の企画を立案し、キャリアガイダンス講師との講演内容の調整などを行います。

社会人講話というと、仕事内容を話してもらいことが多いのですが、本校のキャリアガイダンスでは、「働くことの魅力」と「講師の魅力」とを掛け合わせて話してもらいことを大切にしています。そのため、講演をお願いする人が決まると、必ず打ち合わせにうかがい、私たちの企画への思いを伝えます。講師は、キャリア教育の全体像を知らないのです。全てをお任せするわけにはいきません。1、2時間掛けて講師の体験や考えを聞き、本人と仕事

の魅力が最も伝わる講演内容を一緒につくり上げます。また、当日のスライド、配布資料を事前に確認し、エピソードの伝え方、情報量の調整など、必要に応じて修正を依頼します。全ては、生徒の皆さんに良い出会いを見つけてもらうためです。

以前、中山さんに「もしキャリアガイダンスに参加しなかったら、どんな進路を選んでいたと思う？」と聞いたことがあります。その時、彼は「進んだ道は同じだったかもしれないけれど、目標に向かう頑張り方や大学生活の過ごし方が違ったと思います」と答えてくれました。私は中山さんを、将来、世界を動かす可能性を持った人だと思っています。その可能性はともとと秘められていたものでしょうが、少しでもそれを高めることに私が貢献できたのならとてもうれしいです。

んの姿を知って、彼のようなたくましさを持った生徒を1人でも多く育てたいと改めて思いますし、キャリアガイダンスを通して志を育んでくれたことは教師冥利に尽きます。

### 心に響く言葉を届け、「なぜ？」と問い掛けたい

生徒が志を育むキャリア教育を実現するためには、まず、仕事を心から楽しんでいる人の話を生徒に聞かせることが大切だと思います。モデルとなる人の言葉は、生徒の心に届くはず。そして、そうした中で生まれた生徒の興味・関心に、「なぜ？」と問い掛けることも重要です。例えば、本校の1年生が取り組む探究学習では、私たちが「なぜ、そのテーマに興味を持ったの？」と問う中で、生徒の気付きは自分の中で素通りせず、具体的になっていきます。キャリア教育の目的は、将来の夢や目標から、進むべき学部・学科・大学を考えるだけではなく、志を持ち、それを実現するためにはどうすればよいかを考え、実行できる人を

育てることです。中山さんは、早稲田大進学を決意した時も、その志を私に感じさせてくれました。志を持つと、人は必要な勉強に自ら取り組みます。それは、高校生であれ大学生であれ同じですし、そうなること、教科の好き嫌いを口にしないようになります。志を実現するためには、あらゆる学びが自分に必要だと知るからでしょう。

